

令和3年度都市科学部運営諮問会議 令和3年度に係るコメント集計結果

【1】都市科学部における学生の受入れ

1. 適切に学生受入が実施され、入学定員と実入学者数との関係が適切でしょうか？

段階：	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
3	

コメント：

○今後も新型コロナウイルスのような影響により、個別学力試験が実施できないことがあることに対しては、何かしらの対策を講じるべきではないかと考えます。

○適切な入学定員が行われており、実入学者数についても適切といえる。

○新型コロナウイルスの影響は残るものの、学生受入を適切に実施されていると見受けます。高専教員の立場として、高専からの編入入試の倍率が「やや高め」ということに「ご検討いただければ・・・」と思う気持ちはありますが、人数枠を設けていただいていますし、「しっかり教育を行うための人数設定である」というお考えにも賛同できます。今後とも高専からの編入学生（専攻科から大学院に入学した学生も）を、どうぞよろしく願いいたします。

【2】都市科学部における教育

1. 都市科学部の特色が反映された教育が行われているでしょうか？

(1) ①グローバルとローカルの接点としての大都市、②リスク共生、③イノベーションを重視した教育が行われているでしょうか。

段階：	①まったく行われていない ②不十分である ③行われている ④非常によく行われている
3. 75	

コメント：

○必修科目により、①～③といった貴部の特色が反映された教育を、履修できる体制が整っている。

○1年次必修科目「都市科学 A,B,C」は都市科学部の特色が良く反映されていると思う。平成29年度から令和2年度の「都市科学 A,B,C」については点検し、学科間の偏り等の課題改善に取り組んでいるとのことなので、今後も検証と改善を重ねていただきたい。

○都市科学部としての細かな特徴を様々な教育活動の中で展開されている。

○「都市科学」の科目を中心に、特色ある教育を展開されていると見受けます。そのことは、「他学部に比べて、フィールドでの活動が多い」という調査結果にも表れていると思います。ただ、コロナの影響がある状況では、どうしても活動に制限が生じてしまうように思います。一日も早く学生さんや先生方が思うように活動できるようになることを願っています。

(2) 分野横断型の教育が積極的に推進されているでしょうか。

段階：	①まったく推進されていない ②不十分である ③推進されている ④非常によく推進されている
3. 25	

コメント：

○文理融合分野として取り組まれ、ユネスコなどから一定の評価を得ていると理解している。継続的に今後も推進して頂きたい。

○「羽沢横浜国大駅周辺を都市科学する」プロジェクトは、建築学を基盤においたうえで分野横断的で魅力的な取り組みだと思う。2/19 シンポジウム「都市を複眼的に思考する」も分野横断的な企画内容であった。「都市科学 A,B,C」は1年次の必修科目なので、2～4年生次においても、それぞれの学科の専門性に立脚しながら分野横断的な視点も得られるような工夫を続けていただきたい。

○取り組みもホームページに掲載するなど推進された後の広報もしっかり行われている。

○都市科学事典の電子化など、分野横断型の教育を推進しようとする取り組みを堅調に進められていると見受けま
す。なお、先日の「都市科学シンポジウム」では、学生さんの中から、「他の学科の人とあまり交流できていない」という感想も聞きました。やはりコロナの影響が大きいかと思えます。難しい状況ではありますが、今後も、分野横断型教育をますます推進していただければと思います。

(3) グローバル人材の育成に積極的に取り組んでいるでしょうか。

段階：

①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる

3

コメント：

○海外大学との協定や交流により、グローバル人材育成に取り組まれている。

○オンライン交流等多様な授業や留学、帰国生入試の活用などにより積極的に取り組んでいると思う。将来的には、社会に必要とされる「グローバル人材」とはどのような人材なのかについて、都市社会共生学科などが中心となって都市科学部の成果として発信していくことを期待したい。

○グローバル人材の育成については、様々な視点から引き続き取り組みをお願いしたい。

○本件はコロナの影響を一層大きく受けていると思います。しかし、海外の学生とのオンライン交流会の実施や、JABEEの認定も進められておられます。先日の諮問会議においても、グローバル人材の育成に関する先生方の熱い想いを感じました。本当に早く、元通りの活発な活動環境が戻られることを祈ります。

(4) かながわ・ヨコハマをフィールドとした実践的な教育に積極的に取り組んでいるでしょうか。

段階：

①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる

3. 5

コメント：

○必要に応じて自治体・事業会社等と連携し実現性を高めることで、より実践的な教育にして頂きたい。

○「羽沢横浜国大駅周辺を都市科学する」プロジェクトや学生主導のYUCプロジェクトなど、今後も地元をフィールドとした魅力ある実践的な取組を進めていただきたい。

○ヨコハマの今後の都市開発からの可能性が引き出すきっかけとなることを期待しています。

○コロナの影響が続いている状況では、最良の学習フィールドである横浜の地の利を存分に活かしきれないという、もどかしさを感じておられるのではないかと察します。それでも、羽沢横浜国大駅に関するプロジェクトなど、可能な範囲で取り組んで行こうとされている大学側の前向きな姿勢を感じております。

(5) フィールドワーク（含むオンライン）を取り入れ、理論と実践の接合をしているでしょうか。

段階： ①まったく接合していない ②不十分である ③接合している ④非常によく接合している
3. 5

コメント：

○うまくオンラインも取り入れながら、フィールドワーク、ワークショップ、発表会などから様々なことを習得されようとしている。

○卒業生のアンケート調査結果でも、フィールドワークなどの体験型授業は都市科学部が教育学部と同レベルで最も高くなっている。理論と実践の接合が図れるよう、今後も積極的に推進していただきたい。

○よく接合しているといえる。

○「オンライン現場見学会」の実施など、この状況の中で苦慮されながらも、積極的に進められていると思います。このことは、先日の「都市科学シンポジウム」でも感じられ、参加していた学生さんたちは、他学部に比べてフィールドワークが多い自らの学部を誇らしく感じているようでした。今後もぜひ、この方針でお進めいただければと思います。

【3】その他

1. 教育課程に対応した設備・施設等が十分整備され適切でしょうか？

段階： ①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
3

コメント：

○オンライン授業体制や消毒・飛沫防止措置等ウイルス対策から、講義棟改修等適切に整備されている。

○講義棟の改修や遠隔講義システムの追加導入なども実現されたとのこと。今後ますます、学部の目標に適した施設・設備の整備が進められることを期待いたします。

2. 財務基盤は適切でしょうか、また、管理運営体制（事務組織も含む）が適切に整備されているでしょうか？

段階： ①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
3

コメント：

○収入も増えていますが、支出もあわせて増えているということで、財政基盤として安定されているかと思受けま
す。管理運営体制については、普段お届けいただく諸連絡のご丁寧さから察するに、着実な体制を堅持されてお
られるように感じております。

3. 外部評価の体制が整備され、機能しているでしょうか？

段階： ①まったく機能していない ②不十分である ③機能している ④非常によく機能している
3. 25

コメント：

○外部評価の整備体制はよく整備されている。

○本諮問会議も外部評価の一つですが、JABEE 審査等にも取り組んでおられます。外部評価を堅調に機能させておられると考えます。卒業生アンケートは毎年取得されているということですが、重要な（外部？）評価の一つだと思いますので、今後も、ぜひ継続していただければと思います。

4. 新型コロナウイルス状況への対応は適切に行われているでしょうか？

段階： 3. 5	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
-------------	-------------------------------------

コメント：

○オンライン体制やウイルス対策備品の設置等、適切に行われている。一方で、入試その他試験などの実施方法についてはまだ改善の余地があると考えます。

○令和3年度も個別面談を行うなどの対応は適切である。新型コロナ感染はさらに長引く可能性もあるので、引き続き、不安を抱えている学生がいつでも安心して大学に相談できるような体制をお願いしたい。

○適切である。

○授業の計画例などを紹介していただきましたが、教職員の方それぞれに、最大限の配慮を施されているように思います。それでもなお「感染の広がりを抑えることは難しい」という現実を、日本（世界）中のあらゆる組織が感じていることと思います。教職員の皆様には、何よりもまず、ご自身の健康を大切にいただければと思います。

5. ダイバーシティに配慮した取り組みを行っているでしょうか？

段階： 3. 5	①まったく行われていない ②不十分である ③行われている ④非常によく行われている
-------------	---

コメント：

○性別、国籍などを問わない体制づくりになっている。

○あらゆる教育活動の中で配慮がうかがわれる。

○「一番、自分は何を学んだか」という学生向けのアンケートにも、多様性や共生について多く学んだという意見が多くありました。今後も、着実な取り組みを進めていただければと思います。

全体を通して、ご意見・ご提言がございましたら、ご記入をお願い致します。

○令和3年度も新型コロナウイルス感染症の拡大により、貴学をはじめとする学校関係の運営については、大変ご苦労されていると感じております。

引き続き、学生にはより多くの教育機会を作って頂ければと思いますので、学生と繋がり・メンタルケアも含めご対応をお願いしたい次第です。

○今回、都市社会共生学科卒業生については、自由記述のアンケートも実施していただいた。

できれば、他の3学科の卒業生も含めた都市科学部卒業生全員を対象に、グローバルとローカル、リスク共生、イノベーション、分野横断型の教育など都市科学部が特色としている教育内容について、学び身に付けることができたか、よい点や不足点は何だと思うか、などのアンケートを取ることができれば今後の教育の改善により活かせると思う。

○全体を通じて、よく実施されている。

○先日の都市科学シンポジウムでは、コロナにもめげず活発に活動されている学生さんがたくさんおられました。新しいコミュニケーションツールも活用されておられ、私も学ばせていただきました。今後も、ああいっただ形で、学生さんたちが活発に「自らを発信・広く交流できる」機会を継続いただければと思います。